

「組織と材質研究会」 2018 年 春季行事の報告

第 68 回日本木材学会大会の最終日（2018 年 3 月 16 日）の午後、大会の会場となった京都府立大学 下鴨キャンパス稲盛記念会館の 103 講義室にて春季行事が行われ、70 名が参加した。その内容について、以下に報告したい。

1. 木材解剖用語集の改定について（13:40-14:10）

話題提供者は、中田了五 氏（森林総合研究所林木育種センター北海道育種場）である。木材学会誌では投稿規定で木材解剖用語集（1975 年に同誌掲載）に準拠することを定めているが、研究の進展により現在では適切とは言えない用語、定義を修正すべき用語、新たに加えるべき用語、ほとんど死語となっている用語があり、改訂の必要性があるという背景説明の後、中田氏が世話人となって研究会の事業として進めていくことが承認された。さらにその作業の進め方についても中田氏より腹案が示され、長丁場覚悟で進めていくことを確認した。

2. 講演会（14:20-16:20）

内容は次の通りである。両講演とも英語で行われた。

<テーマ> 熱帯樹木の材形成：季節性と樹種特性

Xylem formation of tropical trees: focusing on seasonality and species characteristics

<講演 1> "Vessel changes in selected naturally grown Dipterocarpaceae and Non-Dipterocarpaceae at Ayer Hitam Forest Reserve, Peninsular Malaysia"

Amir Affan Abdul AZIM 氏（Petra Malaysia 大学）

<講演 2> 材の酸素・炭素安定同位体比からみる熱帯樹木の成長特性（Growth characteristics of tropical trees revealed by oxygen and carbon stable isotope ratios of wood）

大橋伸太 氏（森林総合研究所）

<企画&司会> 岡田直紀 氏（京都大学）

Azim 氏の講演は、マレー半島のマレーシア領内にある熱帯雨林に区分される地区の保存林に成育する樹木に成長輪があるのかを解剖学的に調べた研究の紹介であった。詳しく調べると、フタバガキ科やセンダン科の一部樹木には弱いながらも平均の道管内腔面積（mean vessel lumen area）、道管頻度（vessel frequency）に周期的な変動が認められ、フェノロジーや降水量と関連していることも明らかになった事例などが紹介された。

大橋氏の講演では、安定同位体分析による成長輪検出の試みの成果が紹介された。タイの季節林やブラジル中央アマゾンの樹幹木部における $\delta^{13}\text{C}$ や $\delta^{18}\text{C}$ の半径方向変動を調べた結果、降水量の季節的変動に対応したそれら安定同位体の明瞭な増減が見られ、年輪であると見なされることや、そうした安定同位体が降水量の増減に応じて変動する原理についても説明された。さらに、熱帯樹木の年輪解析の可能性や、そのような試みの中から、天然林の優勢木といえども成長が早いとは限らず、また欠損輪が頻出するなどの意外な事実が明らかになっていることも紹介された。

熱帯産樹木は温帯産樹木のような肉眼的に明瞭な年輪構造を作らないことから、その寿命や成長の経過は古くから植物学・林学関連分野における基本的な疑問であった。安定同位体分析のような新手法が導入され着々と新知見が得られていると同時に、新たな疑問・課題も浮上している当分野の最新事情の一端を知る有益な講演会であった。

公式の行事は上述の2件であったが、これに先立って、この春に関連学会（International Association of Wood Anatomists）から表彰（I.W.Bailey 賞）を受けた渋井宏美 氏（北大、現・北海道立総合研究機構林産試験場）による受賞講演会も行われた。閉会後には京都駅前の料理屋に移動して懇親会が行われ（参加者 63 名）、親睦を深めた。

なお、本春季行事の講演会「熱帯樹木の材形成：季節性と樹種特性」の講演要旨は、学会 HP の当研究会のサイト（下記）にて公開している。

http://www.jwrs.org/kenkyu/wa_wp/Wood_anatomy_and_wood_property/Welcome.html

また、「国際木材解剖用語集」ならびに「材質に関する組織用語集」のデジタル版の編集～公開が 2017 年度に当研究会のメンバーにより行われ、当研究会のサイトからダウンロードできるようになっていることも付記しておきたい。

（文責：佐野雄三・北大農）